

吉祥寺新能

令和八年十月九日(金) 午後五時十五分開演(午後四時三十分開場)

大会長挨拶

吉祥寺新能実行委員会 会長 稲垣 英夫

市長挨拶

武蔵野市長 小美濃安弘

― 番 組 ―

狂言解説

中村 修一

火入の儀

狂言 呂 蓮

僧 野村 万作

宿主 野村 萬斎
妻 高野 和憲

後見 岡 聡史

― 休憩 十五分 ―

能 解説

横浜能楽堂芸術監督 中村 雅之

従者 金子仁智翔

胡蝶 佐久間二郎

源頼光 奥川 恒治

怪僧 土蜘蛛 観世 喜正

独武者 館田 善博

大鼓 柿原 弘和 太鼓 林 雄一郎
小鼓 田邊 恭資 笛 一噌 隆之

ささ蟹

従者 則久 英志

渡部 葵

蟹ノ精 内藤 連

飯田 豪

後見 永島 充
遠藤 和久

地謡 奥川 恒成 小島 英明
桑田 貴志 中所 宜夫
長山 耕三 鈴木 啓吾

(終了予定 午後七時三十分頃)

演目の御案内

狂言 呂蓮(るれん)

一夜の宿を借りた旅の僧が、宿主から説法を求められて語ってきかせます。すっかり感銘を受けた宿主は、自分も出家したいと申し出ます。たしなめる僧に、宿主は身内の者には了解をとつてあるからと説得し、僧に髪を剃ってもらい、法名を授けてもらいます。そこへ宿主の妻がやってきて…

能 土蜘蛛 ささ蟹(ささかに)

健康がすぐれぬ源頼光(みなもとのらいこう)の寢室を、侍女の胡蝶が薬を持って見舞います。胡蝶が帰った後、いつ現れたのか一人の怪僧がたたずんでいました。僧は呪いと共に蜘蛛の本性を現しますが、頼光が太刀で斬りつけると、たちまちその姿はかき消えてしまいます。

駆けつけた警護の独武者(ひとりむしや)に頼光は事の始末を語ります。あたりには傷ついた化生の物の血が流れていたため、跡をたどり、退治に向かうことになりました。独武者と家来は血をたよりに蜘蛛の住む古塚を見つけ、力を合わせて見事、退治となります。

「ささ蟹」という小書き(特殊演出)により、カニの姿の間狂言が現れる場面も見どころ。

会場案内図

- 雨天の際は、武蔵野市民文化会館にて行います。
- 演者は都合により、断りなく変更することがあります。
- 開演中の写真撮影及び録音は一切禁止いたします。
- 会場には、駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- 寺院境内につき、誘導員の指示によってご入場、ご退場ください。その他、係員の指示に従って頂きます。

